

外海浅海域底層連続水温観測結果（2021年）

◆目的

沖合や陸域から影響を受ける外海浅海域の漁場環境について、現況と長期的な変動特性を把握するため、底層水温をモニタリング調査する。

◆方法

飯岡から富浦に至る外海浅海域（水深 10~20m）に観測点 7 点を設定（図 1）し、海底上 1m にメモリー式水温計を設置して 60 分間隔でデータを取得した。得られたデータから月平均水温を算出して過去の観測データと比較した。

◆結果

- ・ 2021 年の観測データを平年（直近 5 か年平均）と比較すると、全体的な傾向としては 1~6 月は平年並み~やや高め、9~12 月は平年並み~低めであった。
- ・ 海域別にみると、飯岡~勝浦海域では 2~3 月は高め、11~12 月は低め、勝浦~伊戸海域では 1~2 月、6~9 月は平年並みからやや低めとなった。また、伊戸~富浦海域では 6 月は高め、8 月以降はやや低めで推移した（図 2）。
- ・ 観測点ごとの月別平均水温の変化について、直近 5 か年及び過去 10 か年の平均値と比較して図示した（図 3、4）。
- ・ 外海浅海域の底層水温は、黒潮の離接岸や暖水波及、親潮の南下勢力などの影響を受けると考えられることから、モニタリング調査を継続して、現況及び長期的な変動特性の把握に努めていく。

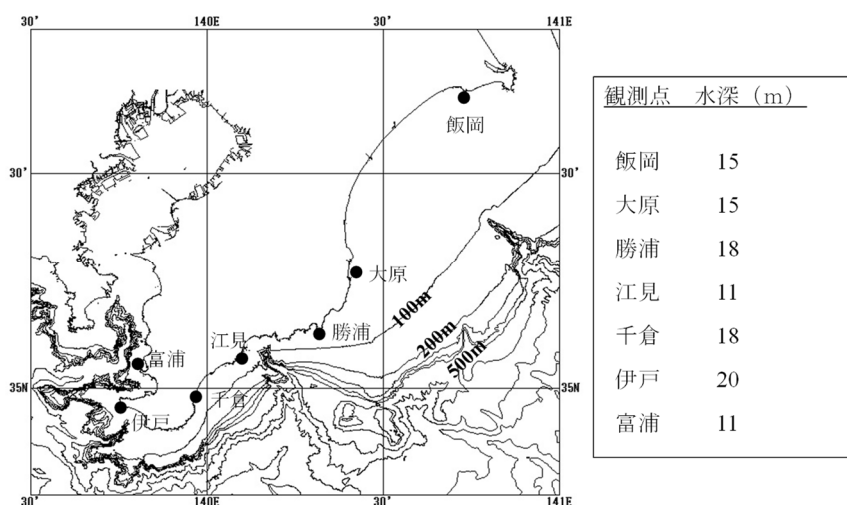


図 1 観測点

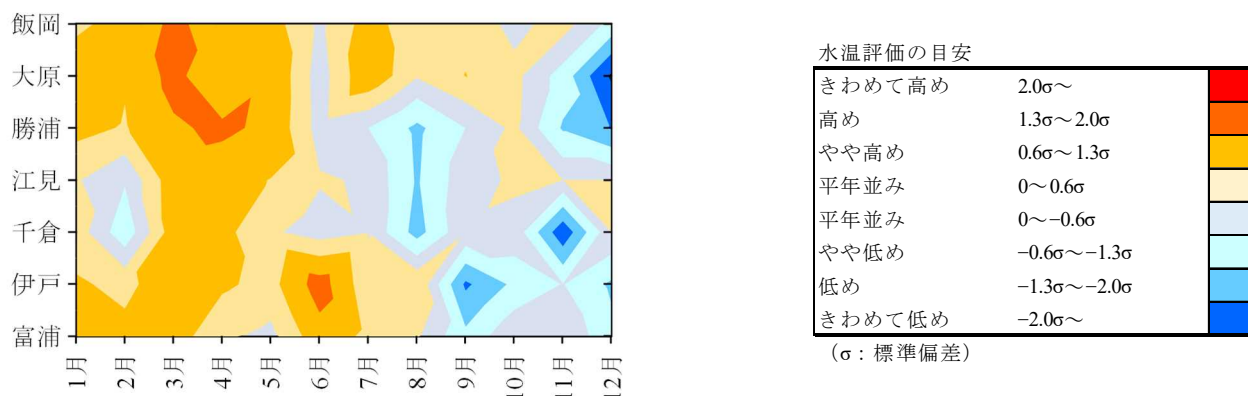


図 2 水温の評価

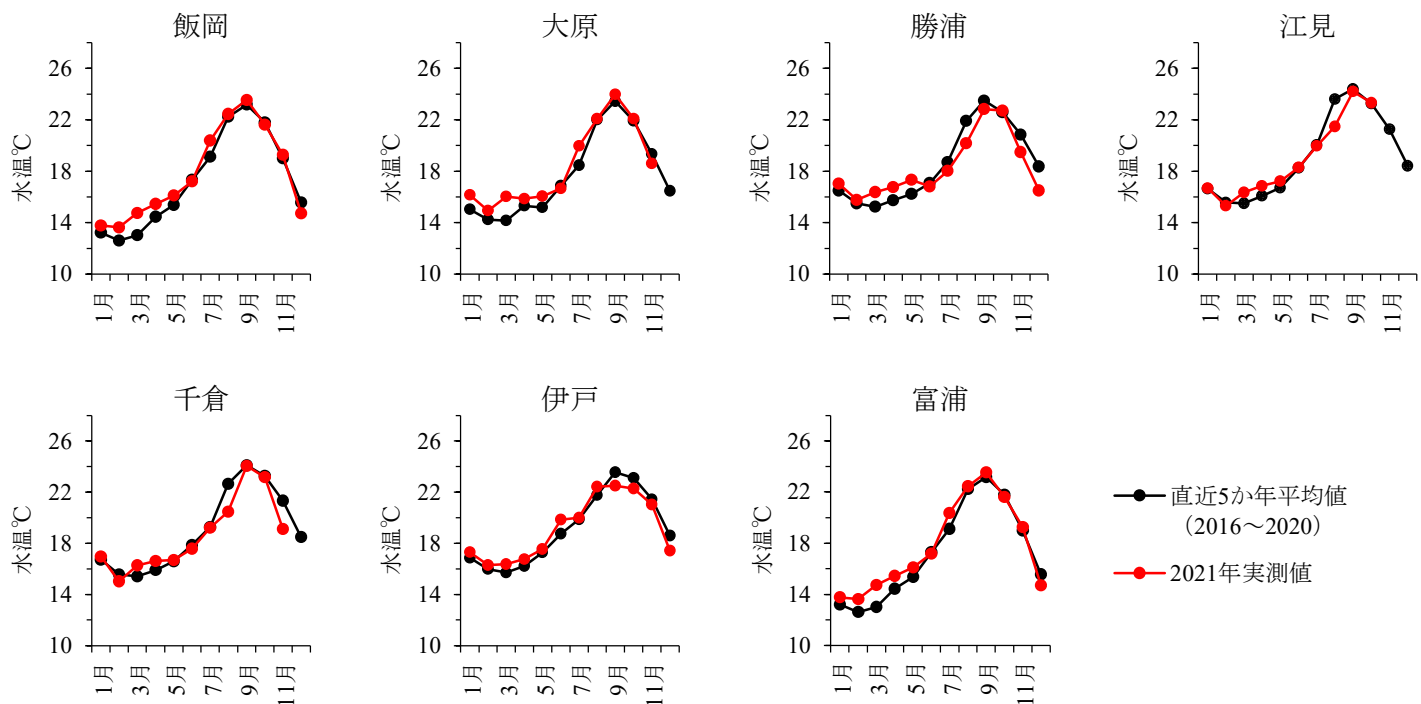


図3 調査点別月別平均水温（底層）

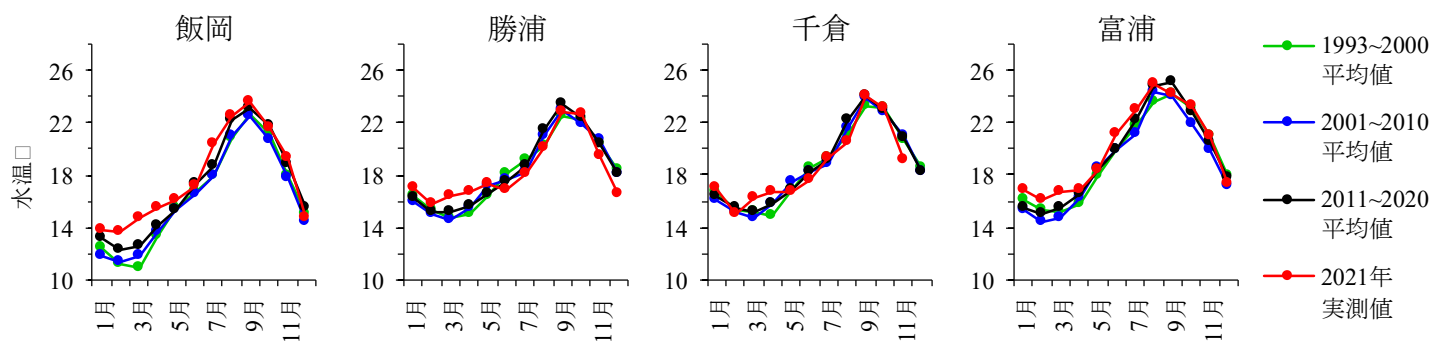


図4 2021年実測水温と観測開始時からの10か年平均水温（底層）

参考 各月の海況 <関東・東海海況速報 2021年1月~12月>

